

整形外科の一年

整形外科医長 高橋 宏 明

人 事 移 動

平成13年は、高橋宏明、三上将、西池修の3名で3月まで診療を行って参りましたが、4月より、西池が北大へ研修のため転出し、交替で中標津町立病院から岩崎美憲（卒後6年目）を迎え、昨年同様の3名のスタッフで診療スタートとなりました。

診 療 状 況

外来は従来通り、予約制、午前のみ受付で行っています。月水金を2診体制、火木を1診体制で行っています。1日平均外来数も150名前後で昨年と比べさほど変わりません。現体制では物理的限界ではないかと考えます。予約外患者も可能な限り診療しておりますが、1診で3時4時までかかる状況が続き病棟、手術業務をかなり圧迫しております。入院は5階西病棟49床で対処しております。入院をいろいろな目的で希望される患者の皆様に対し、どのように当ベッドを使用していくかが問題です。当科に療養目的に入院したい、と外来にいらっしゃる患者さんが日々後を絶ちません。（もちろん入院できません。）当院を取り巻く他医のベッド事情がどうなっていくかで考えていかなければなりません。

手術数及びその内容について

年間手術数は472例で前年比減となりました。内訳は外傷が全体の約50%で昨年に比べ外傷の比重が低下しています。ここ数年来では外傷発生が非常に少ない年となりました。四肢外傷のうち3分の1が上肢、3分の2が下肢で、大腿骨頸部骨折に代表される高齢者の骨折が今年初めて減少しました。原因は不明です。一方、変性疾患に対する手術はここ数年のスタッフの減員による影響が表れ、増加とはいえない状況となっています。しかし3次救急病院としての使命から頸損による四肢麻痺、胸腰椎損傷による対麻痺例の脊柱再建

なども行っており、除圧、固定術等、頸椎、腰椎の変性疾患に対する手術も日常的に行っております。上肢では肩板修復・関節形成・絞扼性神経障害手術等、下肢では赴任3年目となった三上を中心に人工関節置換、鏡視下膝関節手術等多数行われ、膝前十字靱帯再建術も行っております。

3人必要な手術も増えていることから病棟業務や救急外来への対応が困難な状況が頻発しておりご迷惑をおかけしております。

今 後 の 展 望

現状でいいわけがないと思います。しかし、限られたベッド、スタッフで地域の整形疾患に対するあらゆるニーズに応えて行くのはやはり不可能です。外傷治療を地域センター病院として一手に引き受け、多様な整形変性疾患に対する治療を広範囲に扱うよう努力はしてまいりましたが、今後はそうもいかなくなるかも知れません。地域の整形疾患のニーズを考えると一箇所のセンターで扱うには当院医療圏は広すぎます。外傷を含め、頻度の高い整形疾患を扱っていただけるサブセンターのような施設や長期リハビリのできるような療養型施設も望まれます。今後とも医療事故等の危険のない、安心できる良質の医療を提供できる様、確実な診療を維持できるよう努めてまいりたいと思います。

平成13年 手術件数 472 例

(重複例を含む)

上肢外傷	橈骨遠位端骨折	20 例
	その他上肢外傷	70 例
上肢変性疾患	拘約性神経障害	9 例
	その他変性疾患	25 例
下肢外傷	大腿骨頸部骨折	43 例
	他の骨盤・大腿部	16 例
	膝～下腿部	29 例
	足関節・足部	35 例
	アキレス腱断裂	22 例
	膝鏡視下手術	60 例
	靱帯再建術	7 例
下肢変性疾患	骨切り術・人工関節	17 例
脊椎	頸椎	8 例
	腰椎	51 例
金属抜去		55 例
